

親切のはじまり

福井県 中央小学校 6年 津田 ひなた

私は、毎日親切であふれる温かい生活にするために、一日中ずっと、だれと何をしているときでも気持ちを「心づかいモード」にすることが大切だと思います。「小さな親切」は相手の困っていること、やってもらいたいことへ心づかいをすることで、小さなことだからたったの数秒でできます。

私の家の中では、その数秒の親切な行動が毎日起こっています。例えば、ねている人がいればテレビの音量を下げます。知らず知らずのうちに心づかいをしてくれていたとわかったとき、私は一番うれしいです。毎日必ず食べるご飯のときには、しょうゆやおかずの入った皿を「次にいるかな」と思う人の前のところに置きます。

私が考えた「心づかいモード」とは、自分がその場でできる親切にさっと心が気づけるモードのことです。いっしょに過ごす家族の中なら、自分で気がつきさえすれば迷いなく親切な行動にふみ出せるんだと思います。

私の周りの親切な友達や先生はみんな、気づくのが私よりも早くて“ささっ”と動いています。いっしょに遊んでご飯を食べにいったら、全員分のお水を入れて分けてくれたり、荷物を少し持ってくれたり、私が気づくよりも先にやってもらっていました。

だから私も最近、「気づく」のを早くできるように、「心づかいモード」が常に心から消えないように少し意識してみました。荷物がとどいたら受け取る手伝いをする、おしぼりを配る、持っている物がじゃまになっていたら持ってあげるなどと、私がこれまで気づけなかったことに気づくことができました。

親切みたいに自ら気づいて進んで動くために、相手の気持ちに自分が先に気づいてあげられるようになりたいです。となりの人が今困っているかもしれない、やってほしいことがあるのに言い出しにくいかもしれない、そんな人がいつでもどこにいるかわからないから、どんなときにも「心づかいモード」でいられるようにさらにがんばろうと思いました。

私が住む敦賀は、親切な方が多いまちです。私の家の向かい側やとなりに住んでいる方に、家の車の給油口が開きっぱなしになっていたときに知らせていただいたり、かぎを忘れて家の外にいたときに声をかけていただいたりしました。

前に、向かいの家の車の電気がついたままになっていたとき、知らせに行ったことがあります。「親切はおたがいさま」ということを実際に感じられるくらい、たくさんやさしい方がいてくれて本当に感謝です。私は、小さな親切から生まれる感謝の気持ちを大切にしていきます。

この作文を書くときに親切について考えてみて、相手の気持ちに先に気づくことから親切が、親切から感謝が、感謝から日々の会話などへつながりができていくんだとわかりました。すぐそこに自分ができる親切があるかもしれせん。

私は、温かい生活の一番最初、いつも気持ちを「心づかいモード」に設定しておきます。